

- ・ 荻窪駅周辺の交通環境の現状と課題を踏まえ、荻窪駅周辺都市総合交通戦略の骨格となる4つの視点ごとに、荻窪駅周辺での将来交通環境と、その実現に向けた戦略目標を定めます。

【将来交通環境と戦略目標】

1. 南北移動・交通結節

【将来交通環境】

南北を気軽に行き来できるまち（目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ関連）

- ・まちを分断している鉄道や幹線道路を意識せず、地域住民はもとより、来街者も含む誰もが、安全・快適に南北を行き来できるようになっています。

○らくらく南北往来プログラム

対象 全ての人

主として交通弱者をはじめとした歩行者等の安全で円滑な移動や、地上駅である鉄道や幹線道路による地域の分断の解消、まちの回遊性向上の観点から、

- ・駅と一体となった南北連絡動線について、区と鉄道事業者等の関係者が連携を図り、調査・検討・協議を進め、その充実に取り組みます。
- ・荻窪地下道について、移動円滑化や環境改善に取り組みます。環八通り地下通路については、主に環境改善に取り組みます。

【将来交通環境】

乗り換えしやすい駅・駅前広場があるまち（目標Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ関連）

- ・迷わず、スムーズに乗り換えられるターミナル駅となっています。

○すいすい乗換えプログラム

対象 全ての人

区内最大の交通結節点として、利便性・快適性を更に高める観点から、

- ・バス・タクシーなどのターミナル機能、駅との連絡機能等の充実に向け、区と鉄道事業者等の関係者が連携を図り、調査・検討・協議を進め、駅前広場等の駅周辺の基盤整備等に取り組みます。
- ・JR・メトロ間等の乗換え経路の改善に向けた検討・協議や、駅とバスのりば間のシームレスな案内・誘導に取り組みます。

【将来交通環境】

普段の買い物・まち歩きを快適に楽しめるまち（目標Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ関連）

- ・区内最大の乗降人員を有する荻窪駅の、乗換え客を含む日常的な利用者等が、気軽に荻窪のまちに出て楽しみ、にぎわいと交流が生まれています。
- ・駅前広場では、イベントや憩いのひとときを楽しむことができます。
- ・歩行空間にある様々なバリアが無くなり、充実した案内・誘導サインや休憩スポット等により、地域住民はもとより、来街者も含む誰もが、商店街等を楽しく、快適に移動できています。
- ・地域の日常生活を支える「モノの流れ」と、「人の流れ」が共存しています。
- ・（仮称）荻外荘公園、大田黒公園、角川庭園などを巡るまち歩きの際に、商店街も散策し、食事や買い物などを楽しむことができます。
- ・地域住民が、歴史的・文化的資源の再発見により、地域への愛着や誇りに思う気持ちが深まっています。これにより、地域を訪れる来街者に対しておもてなしの心が育まれ、イベントなどの機会を通じて、来街者との活発な交流が生まれています。
- ・自転車を便利に、快適に、効率よく使っています。

○今日もいつもの商店街プログラム

対象 主として
地域住民

- ・駅周辺のにぎわいと交流を高めるきっかけをつくる観点から、乗換え客を含む日常的な駅の利用者等が、気軽に荻窪のまちに出て楽しめるよう、まちの玄関口としての駅前広場の交流機能の向上などに取り組みます。
- ・まちのにぎわいの創出や、ユニバーサルデザインの観点から、商店街などの買い物道路について、年齢や障害の有無などに関わらず、また、地域住民はもとより、来街者も含む誰もが、安全で快適に買い物を楽しめる空間の確保に取り組みます。
- ・まちのにぎわいの創出や、人の流れと地域の日常生活を支える物流との調和の観点から、まちづくりと連携した駐車場施策や荷捌き環境の改善等に取り組みます。

○ぐるっとおでかけまち歩きプログラム

対象 主として
来街者

- ・来街者のまちの回遊性を向上させる観点から、駅構内と地上部との連続性を考慮した、わかりやすくシームレスな案内・誘導サインの整備に取り組みます。
- ・駅周辺のにぎわいと交流を高めるきっかけをつくる観点から、乗換え客を含む日常的な駅の利用者が、気軽に荻窪のまちに出て楽しめるよう、まちの玄関口としての駅前広場の交流機能の向上などに取り組みます。
（再掲）
- ・数多く点在する歴史的・文化的資源を生かした観光まちづくりと、これを通じた地域への愛着や誇りを育む観点から、復原・整備を行う荻外荘と、大田黒公園や角川庭園等の周辺施設との連携を意識した上で、ハード・ソフトの両面から、回遊性の向上に取り組みます。

○賢い自転車利用プログラム

対象 全ての人
（自転車使用者）

- ・駅を中心とした地域住民の移動手段の充実や、まちを巡る来街者の移動手段の確保等の観点から、シェアサイクル事業の実施に向けた調査・検討により、自転車利用者の利便性・快適性の向上に取り組みます。

【将来交通環境】

誰もが安全に安心して移動できるまち（目標Ⅰ・Ⅱ関連）

- ・地域住民はもとより、来街者も含む誰もが、安全かつスムーズに通行できる道路となっています。
- ・歩行者等も自転車利用者も安全に移動できるようになっています。
- ・みんなが交通ルールを守り、歩行者等や自転車利用者がお互いに配慮して道路を利用しています。
- ・平常時も災害時も更に安全な駅・駅前広場になっています。

○ホッと道路プログラム

対象 主として
地域住民

- ・歩行者等や自転車利用者の安全性・快適性の向上とともに、災害時における円滑な消防活動や救急・救援活動、安全な避難路の確保の観点から、「すぎなみの道づくり（道路整備方針）」に基づく主要生活道路等の整備や、「杉並区無電柱化推進方針」に基づく無電柱化の推進等により、地域住民はもとより、来街者も含む誰もが、安全・快適に移動できる道づくりに取り組みます。
- ・交通の安全と円滑化の観点から、まちづくりと連携した駐車場施策や荷捌き環境の改善等に取り組みます。

○みんなに優しい自転車利用プログラム

対象 主として
地域住民

- ・歩行者等や自転車利用者の安全性・快適性の向上の観点から、「杉並区自転車ネットワーク計画」に基づく自転車ネットワーク路線の整備に取り組みます。
- ・また、交通安全対策として、自動車の交通量や速度の抑制対策、自転車利用者の運転マナー向上や交通ルール順守への意識啓発等に取り組みます。

○頼れるターミナル駅プログラム

対象 全ての人

- ・災害時の滞留機能の向上の観点から、駅前大規模商業施設の機能更新期や周辺街区での共同建替え等の機会をとらえ、駅前広場等の駅周辺の基盤整備等に取り組みます。
- ・鉄道事業者等の関係者と連携を図りながら、駅と駅前広場等の駅周辺の更なる安全性確保に取り組みます。

4. 将来の社会変化

【将来交通環境】

新たな技術等を生かした安全で快適に移動できるまち

対象 全ての人

○新技術活用プログラム

- ・ 社会経済状況の変化や新たな技術開発の動向等を踏まえ、高齢者等の移動支援や効率的な物流の確保の観点から、自動運転技術等、様々な新しい技術の活用の可能性について調査・検討を進めます。

【各プログラムと本戦略がターゲットとする対象との関係性】

